６）海洋文化館の利活用促進にかかる事業

木下靖子[1]・板井英伸[2]・仲松由美子[1]

キーワード：海洋文化館、展示資料の魅力発信、海洋文化講座、地域連携

１．はじめに

海洋博公園の海洋文化館は、沖縄を含む太平洋島嶼域の海洋文化に関する研究資料を展示する施設である。本施設の魅力を発信し、知名度の向上と利用促進を図ることを目的に、「海洋文化講座」と題し、太平洋島嶼域の海洋文化を題材とした一般向け館内ガイドツアーおよびギャラリートークを実施した。実施は海洋博公園管理センターと共同で開催し、総合研究所が行っている海洋文化に関する調査研究の成果を積極的に活用したほか、普及開発課美ら島自然学校（名護市嘉陽区）を拠点に行っているウミガメ産卵調査、地域伝統行事調査、生業調査などの成果も活用し、発信した。

２．講座・企画展・ワークショップの実施

１）海洋文化館

一般向けに、海洋文化講座、専門講習、ミニシンポジウム、企画展を実施した(表-1)。講座、講習の集客は定員 20 名に対し、各回ほぼ満席であった。講座の構成は、約 1 時間のスライドを用いた座学後、館内の展示を実際に見て回りながら解説を行うというものである（写真-1)。

ミニシンポジウムでは、2013 年海洋文化館リニューアル時に、丸木舟の作成、展示づくりに取り組んだ西表島の那根操氏、星公望氏、糸満市の城野豊氏（NPO 法人ハマスーキ）など民具製作者を招き、第 1 部糸満編、第 2 部西表編としてスライドを用い製作の経緯などを紹介し、対話形式をとって館内解説を行った。

表-1 海洋文化館の講座・企画展

7 月 20 日	海洋文化講座「”海洋文化館のお仕事”調査研究 太平洋と沖縄の海洋文化タトゥとハジチ」
8 月 24 日	専門講習「沖縄の人と生き物 沖縄のウミガメ」
10 月 20 日	ミニシンポジウム「展示リニューアルから 12 年 干支ひと回りの十三祝い」
11 月 23 日	専門講習「海洋文化館展示・収蔵資料の保存と IPM 守り・残し・伝える」
12 月 24 日	海洋文化講座「島をつなぐ船 星と航海術」
12 月 28 日 ～1 月 25 日	企画展「舟は人が集まる場所」（海洋文化館常設展示室 パネル展（暮らしのなかの海洋文化実行委員会による活動の写真展示）

写真-1 海洋文化講座 専門講習会ウミガメ

写真-2 ミニシンポジウム

写真-3 企画展「舟は人が集まる場所」

２）沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）

「出張・海洋文化講座」を沖縄県立博物館・美術館の博物館講座室にて全 4 回、県立博物館主催の「博物館・文化講座」を同館の講堂にて 1 回開催した（表-2)。「出張・海洋文化講座」の参加者は各回 15～20 名程度で、前年度よりやや増加した。「博物館・文化講座」は参加者 60 名であった。講座では各回の終了後、総合評価、講師の説明、教材、情報入手経路な

[1]普及開発課　[2]企画運営課

どアンケート結果を分析し、講座内容や告知方法の改善を図った。講座ではスライドを用い講義を行う他、講演者が調査地から持ち帰った資料を参加者に直接触ってもらう時間を設け、海洋文化館の展示資料に興味関心が結びつくようにした（写真-4）。

表-2 沖縄県立博物館・美術館の講座

5 月 11 日	出張海洋文化講座「島の暮らしを支えるアダン文化」
7 月 20 日	出張海洋文化講座「島に伝わる樹皮布の謎」
7 月 22 日 ～8 月 3 日	企画「さがそう！自由研究のタネ」、海洋文化関連研究資料の展示解説
9 月 7 日	出張海洋文化講座「石焼調理の技術と実践」
11 月 2 日	出張海洋文化講座「島をつなぐ船 星と航海術」
12 月 20 日	博物館・文化講座「南太平洋の人びとと自然の関わりから見る海洋文化」

写真-4 出張・海洋文化講座（おきみゅー）

３） 美ら島自然学校他

校内に植生しているトゲナシアダンの葉を使用し、アジア・オセアニア・沖縄など、南太平洋の文化を体験できるワークショップの開発を行った。

前年度はアダン葉の工作で作成するものを比較的シンプルな作り方であるボールにしていたが、今年度は小学校低学年でも作成可能でありながら、できあがりが複雑に見え、より達成感を得られるものを調査し精査した。その結果、八重山地方に伝わる星型の立体の作成を試した。一見難しそうに見えるが、約１時間かけて取り組めば小学校低学年生でも作ることができた。作り方の配布資料、説明の仕方など、今後改良を加えることを課題としている。

企画したアダン葉のワークショップは美ら島自然学校にて、のべ 93 名の参加者に実施した（表-3）。

表-3 美ら島自然学校ワークショップ

10 月 1 日	ヒルトン沖縄北谷リゾート職員、恩納村安冨祖小学校（1、2 年生）ワークショップ「アダン葉の工作」（八重山地方で子どもの玩具をアダン葉で作成）（参加者：68 名）
11 月 30 日	自然学校ウミガメまつりワークショップ「沖縄と太平洋のアダン文化についての講話とアダン葉の工作」（参加者：25 名）

３．外部評価委員会コメント

研究成果や展示資料を活用した、地元還元の活動を積極的に行っていることがうかがわれる。とりあげているテーマは沖縄だけではなく、奄美や九州地区とも共有できるであろうし、また日本のオセアニア研究者のテーマとも連携できるので、今後はこの活動について県外の機関へ広く情宣、後方に力を入れてほしい。講座に参加した人々がどのように内容を活かしているかも具体的に聞いてみたい。
（後藤顧問：南山大学人類学研究所特任研究員）

ミニシンポは民具制作者の報告で多くの観覧者を得たが、企画展の注目度はいかがだったか知りたいところである。沖縄県立博物館・美術館でのアウトリーチ講座は毎年着実に実行しており、また、関心の高いワークショップも持続的に実施しており評価できる。講座内容に関連する実物を持参して触れてもらう、ワークショップのテーマなどを考慮し、海洋文化館への誘客につなげるさらなる工夫を期待する。

（須藤顧問：堺博物館館長）